

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790500037		
法人名	医療法人社団慈泉会		
事業所名	グループホーム南 湖 1		
所在地	福島県白河市関辺引目橋33		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(社)福島県介護支援専門員協会		
所在地	963-8033 福島県郡山市亀田2-19-14チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成24年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南湖公園まで車で3分のところに位置し、外出時には公園内をドライブ、散歩することも入居者の楽しみの一つとなっている。スタッフは生活のパートナーとして入居者に接し、毎日充実した生活が送れるよう支援している。ケアの中での疑問点や問題点が生じた場合には、すぐにスタッフ間でカンファレンスの場を持ち話し合いを行うことによりより良いケアを提供できるよう努めている。スタッフも各研修へ積極的に参加し又、1ヶ月に1度勉強会を行う時間を設け、スタッフの認知症や病気に対する知識も深める努力をしている。入居者、一人ひとりが自分の人生を自分らしく、自分の気持ちを伝えられるように寄り添いながら、思いを受け止めやりたいことや求めていることを実行できるよう支援している。入居されている方の重度化や終末期においても様々な体験を通して勉強中であり一人ひとりのニーズにあった

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設や障害者施設等をもつ法人の2番目のグループホームという点をいかし、実践で積み上げてきたノウハウをさらにによりよいものにしてしようという姿勢が、管理者スタッフ全員から感じられた。利用者も職員もいきいきと暮らしている。利用者一人一人を理解し、向き合う姿勢がある。利用者はゆったりと自分らしく過ごされており、職員は利用者に関心のある状況の変化があっても、柔軟に対応している。同一敷地内には、診療所や精神科デイケア等があり、それらの施設とも連携を取り合っており、ここならではの取り組みを展開している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人として2つ目のグループホームとして、同じ理念を掲げ取り組んでいる。管理者や職員は常に理念を念頭に置き、より理念に対する理解が進むよう、全体ミーティングや勉強会、日々の申し送りに望んでいる。	理念が具体的で、取り組んでいる状況についてしっかりと意識化できており、職員が具体的に説明することができていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で行つひもろぎの花火大会、秋祭り、南湖クリニックでの盆祭りはチラシを配布し地域との交流を図っており多くの参加者で賑わっている。又年に4回程度発行する地域向けの広報誌では認知症やグループホームの理解を深めている	グループホーム内だけではなく、2階にあるデイサービスや隣接する施設、クリニックなどと合同で行事や避難訓練において地域との交流を図っている。個別に訪問していただき、基を打っていく方もいると聞いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は認知症キャラバンメイトとして活動しており、講習会等で事業所での実践を通して多くの人に認知症の理解を深めてもらう活動を行っている。回覧板を利用した地域への広報活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市担当課長、地域包括支援センター、介護相談員、地域代表、家族代表で構成され、会議では利用者の様子をスライドを使って紹介したり、認知症の理解を深める為の意見交換などを行っている。	同一法人グループホームと共同開催し出席者の負担を軽減している。勉強会形式でホームでの日々の取組みを説明し意見を聞く際、出席者から必ず発言してもらい共に理解を深めてもらう工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは認知症サポーター養成講座の講師派遣や介護相談員の受け入れ、運営推進会議の委員を通して信頼関係を築いており、運営上で問題が生じた場合には積極的に相談ができる関係を保つことが出来ている。	運営推進会議に参加してもらい年に1回程度は、研修担当してもらい制度の説明をしてもらったり、市独自の取り組み(あったかい号)の受け入れをしている。常時顔が見え話し合える関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を含め職員全体が身体拘束をすることの弊害を理解し、勉強会の開催で知識、技術の向上に努めている。日中の玄関の施錠を含め、何が身体拘束にあたるのか、自分達のケアは言葉で拘束していないか等ミーティングなどでも考えるようにしている。	特に言葉による拘束になっていないか、スタッフ間で見直し、万が一そうした場面を管理者等が見掛ければその場で注意するとともに、全体会議等で再度、その言葉が相手にはどう聞こえたか考えるように促し、再発防止をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に全体ミーティングやカンファレンスを通して知らず知らずに虐待になっていないかを確認している。勉強会を開催し虐待関連法の内容についても職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は利用者の中で成年後見制度を活用している方がいる為一通りの説明は行っているが、詳しく勉強会や研修会の参加はこれから開催していく予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時、利用前、利用開始時、と数回に分けてその時の疑問、不安点の確認作業を行い説明や理解を図れるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には日頃の様子を報告し気軽に会話ができる関係作りを現在行っている。家族会を開催することで、家族と職員の交流が深まるよう機会を作り意見が通りやすい環境を作っている。又運営推進会議においてご家族にホームの運営に携わって頂きながら理解がすすむよう努力をして	日常の些細なことでも声を掛けて欲しいと伝えてあり、具体的には、「調理前に消毒はしていないのか」という問いかけがあり、実行していても目に留まらなかった可能性を気づかされた由。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度開催する全体ミーティングや申し送り等を利用し、職員の意見や要望が聞ける機会を設けている。主任者会議の内容を周知することで職員1人1人が法人の運営や管理に理解をもち疑問点は管理者に話せるよう努めている。	行事でも実施後反省会で意見を述べ合ったり、意見を紙に書いて提出してもらい取りまとめたものを後日の全体ミーティングで配布するなど、本音が出し易くそれを次回に繋ぎ合わせる工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活環境に配慮しパート等の雇用形態も採用しそれぞれの希望を取り入れた勤務形態を取っている。又上級資格を目指す職員に対し、勉強会を開催したり本人の希望や能力に合わせた仕事ができるよう面接を実施したり取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ホーム内での勉強会や法人全体の勉強会を開き職員の知識と技術の向上を目指している。又グループホーム連絡協議会が開催する講習会や各種研修にも職員が積極的に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、県南地区グループホーム協議会の会議、研修会を通して他の事業所との交流に努めている。管理者は県グループホーム協議会の運営委員を務め県内事業所全体の資質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行い本人と家族から困っている事や不安事、要望等を聞き取り安心した気持ちで日常生活を送っていただけるよう支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事、要望等を聞き理解した上でどの様に対応するかスタッフ間で話し合い考えている。家族面会時にも状況を伝え家族が安心できるよう配慮しその都度情報交換を行いながらお互いの信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時に今何を求め何か必要であるかを見極めスタッフ間で情報を共有し統一したケアを行い「今何を望んでいるか」「その時どうして欲しいのか」相手の訴えたいことを見逃さず支援を行っている。また法人の他職種との連携を図り他のサービスも視野スタッフは生活のパートナーとして入居者に接している。入居者一人ひとりの個性を理解しその方の生活のスタイルに合わせた日常生活を送れるよう支援している。また日々の生活の中で喜びや悲しみ、その時の心理を知ることにより共に分かち合える関係作り		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の方々と共に入居者を支えて行けるよう随時日常の生活状況を報告し相談をしながら協力を得ている。また自宅での生活状況を参考にしながらお互いに支えていけるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時お茶を飲みながらゆっくり話ができるよう配慮している。またいつでもいらしてくださいと声をかけたり手紙を書いたりし関係が途切れないよう支援に努めている。	面会に友人や知人がいらした時は、声掛けをして関係が続くように工夫をしている。また、こちらから手紙を出すなどをして関係が切れとしまわれないような取組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり個性があり生活の環境や生育層の違い等もあるため入居者同士の相性にも配慮している。スタッフが常に関わりを持つ事で孤立する事なく楽しく互いが生活出来るよう支援している。日々の生活の中で手を差し伸べてくれたり楽しみに談笑する姿も見ら		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在契約が終了した方はおりませんが必要に応じ入居者、家族との関係を大切に相談や支援しながら可能な限りフォローし支援に努めて行きたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどう暮らして行きたいのかどのような希望があるのかを日々の生活の中何気ない会話から読み取るよう心がけている。又、無言の行動の中にどのような希望があるのかをスタッフ同士本人の立場になって話し合い対応している。	自然にスタッフが声を掛けている姿が見られた。利用者の言葉を待つ対応や、しぐさから何を欲求しているのかを読み取って手を貸したりできていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの活用や今までどの様に生きてきたのか、何に頑張ってきたのかをご本人に毎日の会話の中で知る努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ同士申し送りを徹底し必要時はその都度カンファレンスを行うことで体調の変化や精神的な不安に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや必要時のカンファレンス、日々の生活の記録を重要視しご本人の意向に添えるよう介護計画を立てている。又、家族や医療地域とも連携を取りその時のご本人の状態に合った生活が出来るよう大きなチームとして対応出来ている。	ケアプランも具体的でモニタリングしやすい。また日常的に気づいたことを「下書き」するシートがあり、重要な部分を記録に残すが、その下書きも一定期間保存し、申し送りやミーティングの際にも活用している	個別記録に詳細な記録があるが、事故の対応などがみつけにくい。きちんと対応できているだけに情報を見やすくする工夫(その部分のみ取り出しコピーするなど)を望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録の中にご本人の様子や話した内容、カンファレンス時など、残しており、介護の実践に役立てたり、介護計画作成時活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望、家族の意向現在の状況を把握し多方面からの支援を視野にいれている。いろいろな角度から情報を取り入れ偏らない思考でご本人の生活を支えられるよう日々アンテナを張り、支援に当たっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの立地条件や季節、天候に合わせ、ご本人の出来る事現状を把握しながら地域資源を活用できている。地域の力の変化を知る努力をし情報交換したり、こちらから発信したり、さりげなくご本人なりの楽しい生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望や要望を取り入れ、かかりつけ医の受診を行っている。受診はできるだけホームで対応しているが、ご家族が協力していただける場合は情報交換を行っている。他科受診の場合もかかりつけ医への報告を行い協力していただけるよう働きかけている	基本的には市内の入居前にかかっていた医療機関に通院し家族同行・職員同行でも互いに情報共有を密にしている。新しい病気や治療が必要時は主治医や家族等と情報交換しながら、他医へ受診するなどしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在言葉実施やターミナル対応など様々な医療体制があり、ホームの看護師だけでなく、訪問看護師や、連携看護師との連携など多岐に渡るため、介護職は日々の情報を的確に報告する事に心掛け、常に相談する事を徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に、利用者の状態を提供し、退院に当り病院の関係者から、利用者の状態について、電話や病院に来院し、情報交換をして、早期退院に向けて対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化に向けた事業所の指針を提示しホームで出来る事の確認や家族の希望を伺っている。現在終末期を向かえられた方のご家族・本人の意向を確認の上、その希望をかなえられるよう関係者との連携を密にし本人にとって最善の方法をとるよう努力している。	入居時に指針への同意を得ている。実際に亡くなられた方の時には、頻回に希望の確認をしそれに基づいてミーティングを開催し、スタッフの対応を統一していった。またその経過を日誌に記載し、情報の共有に努めた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生時の勉強会を定期的に行う事で実践力を見に付けていくよう努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回敷地内の事業所との合同訓練を実施、隔月にはホーム内での夜間想定避難訓練を行い職員全員に周知するようにしている。今後地域住民との訓練を計画する予定	まずは安全なところに避難することを目的とし、合同訓練以外にも隔月夜間に避難訓練を実施し、入居者間でも声を掛け合って所定の場所へ動けるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が生きてきた過程や生い立ちをふまえ、人生の大先輩として尊敬し、本人のプライバシーや誇りを損ねぬような声かけや対応に心配りを忘れず接するよう、心がけている。	歩行のバランスが悪い利用者のトイレ介助の際に、安全な姿勢が取れるまで介助後、トイレの外に立って排泄を待ち、声掛けして確認後に入室して介助していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする時に選択して頂いたり、何をしたいのかを常に問いかけ、自由に意思を主張できるような環境を作り、自らの決定が出来るように日々働きかけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有スペースや居室で思い思いの時間を自由に過ごせるよう声かけや見守りを行い、また、希望があればその都度話し合いながら本人のペースに合わせて、毎日を気持ちよく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選びは本人とともにに行い、気に入った洋服を着用して頂き、身だしなみも一緒に鏡を見ながら本人の好きなように整容できるよう声かけ見守り、時には手伝い、気持ち良く一日を過ごして頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は利用者と職員と一緒に準備、食事をし、片付けを行っている。また、一緒に食事をする事で利用者の嗜好や一人ひとりの食事形態を考える機会となる為、献立作成に役立てている。	訪問日のメニューは焼きそばで、利用者がホットプレートで作っていた。また食事の際にもそのことに触れ礼を言ったり、利用者から「この人が漬物をいつも漬けてくださる」と紹介されたりした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養ハフツスを考え献立作成し、一人ひとりの食事形態に合わせて食事を提供しているが、食事量や水分量が確保出来ない利用者には補助食品を活用したり、別メニューにて対応したりと工夫しながら一日の摂取エネルギーを摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、自分で口腔ケアが出来る利用者には声かけにて促し見守りを行い、介助が必要な利用者にはスタッフ介助にて口腔ケアを実施、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日のケース記録を確認し一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けのタイミング、衣類の上げ下げの介助など過剰なお世話にならないよう気を付けADLの維持につとめる。又、少しずつ出さない事も出てくるので日々様子観察している	トイレに行きたいという度ごとに何度もトイレまで同行し介助することでパットを汚すこともなくなり布パンツになった方や、定時の声掛けでスムーズに排泄ができるようになってオムツが外れた方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認し便秘が続く場合はかかりつけ医と相談した上でホーム内で調整している。食事に気をつけたり、運動を取り入れ自然な排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕方から落ち着かなくなり入浴をすると落ち着かれる方や一番風呂が好きの方、入浴後のビールを楽しみにしてる方等、一人ひとりの希望を知り入浴は楽しい物と思ってもらえるように対応している	3時半以降8時くらいまでを入浴時間としているが、本人より希望があればその前の時間にも入っていただいている。入浴後の一杯を楽しみにしている方には、食事の時間との調整を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを知り昼食後の休息、長く休息すると夜間眠れない事もあるので時間の調整も考える。又、夕方から不穏になり夜間不眠にならない様夕方のコミュニケーション、声かけに注意し、夜間はゆっくり休んでいただけるよう工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録などで受診された際の記録をよく理解しながら服薬支援する。又、誤薬のないよう服薬セット時にはチェック体制をとっている。かかりつけ医との内服についての情報交換を密に行いできるだけ服薬の量が多くならないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランや日頃の会話、コミュニケーションから一人ひとりの趣味や興味のあること得意なお手伝いを知り声かけし押し付けるのではなくスタッフも一緒になって楽しむよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に何回か遠出のバスハイクを計画している。また身近では食材の買い物や個人で買い物希望があれば食事をしながら出かけ、ホーム周りの散歩で外の空気を吸い気分転換など行っている買い物などでは自分の家や馴染みの場所まで行ったりする事で昔話に花が咲くことがある。	買い物には毎日出かけており、その日に出かけたい人が参加している。「行きたくないから買ってきて」という方もいる。それでも月に1回程度は出かけている。他に春と秋にドライブを企画したりバスハイキングをしたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に合わせてお金の所持を行っている。買い物などで使用したお金等は本人と共にお小遣い張へ記入する。自分で持てない方は小額を金庫にて保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各自担当が決まっており、大事な報告・相談・お知らせ等は必ず電話や手紙、又は面会時などに連絡して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の暖簾などは利用者と共に作成し使用している。馴染みの季節感を生活に取り入れスタッフも一緒になり楽しんでいる。大きな音や不快な匂いに注意し、心地良く生活してもらえるように努力している	大きな音やまぶしすぎることなく、心地よい空間となっていた。また、藤の仕切りを置いて落着ける空間が作られていた。壁には、利用者と職員が共同制作した季節感あふれる掲示物があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さんが好きな事が出来、落ち着いていられるよう配慮し又、仲の良い人たちは一緒のテーブルに座ったりと楽しく過ごされるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・ダンス・仏壇・昔から好きだった物など工夫して設置し家族共相談しながら安全に暮らせるよう工夫している。	何でも使いなれたものを持ちこんで欲しいと入居時や他の機会にも声を掛けているという。椅子やダンス等を持ちこんだ方もいらした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの利用者さんの力に合わせ、持っている力を生かし生活できるよう物の配置には配慮している。利用者さんの力が発揮できるよう工夫している		